

平成29年産水稻の10a 当たり平年収量（案） （ふるい目幅1.70ミリ基準ベース）

平成29年3月
統 計 部

1 全国値 532kg（＋1kg）

2 都道府県値

前年から変動した都道府県は以下の14都道県である。

①増加した都道府県（11都道県）

北海道（＋5kg）、青森県（＋3kg）、岩手県（＋1kg）、

宮城県（＋2kg）、福島県（＋1kg）、千葉県（＋3kg）、

東京都（＋3kg）、新潟県（＋2kg）、富山県（＋1kg）、

石川県（＋1kg）、長崎県（＋1kg）

②減少した都道府県（3県）

長野県（－2kg）、香川県（－3kg）、福岡県（－1kg）

単位:kg

都 道 県	平 年 収 量					対 前 年 差	主 な 生 産 事 情
	H 25	26	27	28	29 (案)		
全 国	530	530	531	531	532	1	作付面積が大きい北海道、新潟県等の平年収量の増加
北海道	535	537	539	541	546	5	近年の収量水準が平年収量を大きく上回って高めで推移、収量水準の高い「ななつぼし」等の作付面積割合が増加傾向、成苗移植等高収量で安定的に生産する栽培技術の普及、近年の登熟期間における平均気温が安定しており、千もみ当たり収量も上昇傾向等
青 森	584	584	584	586	589	3	近年の収量水準が平年収量を大きく上回って高めで推移、収量水準の高い地帯の作付面積割合が増加傾向、近年の登熟期間における平均気温が安定しており、千もみ当たり収量も上昇傾向等
岩 手	533	533	533	534	535	1	比較的収量水準の高い「ひとめぼれ」の作付面積割合が増加する傾向、また、比較的収量水準の高い「銀河のしずく」の作付面積割合の増加が予想される、近年の登熟期間における平均気温が安定しており、千もみ当たり収量も上昇傾向等
宮 城	530	530	530	531	533	2	近年の収量水準が上昇傾向、比較的収量水準の高い「つや姫」の作付面積割合が増加傾向、近年の登熟期間における平均気温が安定しており、千もみ当たり収量も上昇傾向等
福 島	537	537	542	542	543	1	収量水準の高い地帯の作付面積割合が増加傾向、近年の登熟期間における平均気温が安定しており、千もみ当たり収量も上昇傾向等
千 葉	533	535	535	535	538	3	近年、出穂期が早まることで登熟が安定し、千もみ当たり収量が上昇傾向等
東 京	411	411	411	411	414	3	収量水準が高い「あきたこまち」の作付面積割合が増加傾向等
新 潟	539	540	540	541	543	2	収量水準の高い「こしいぶき」の作付面積割合が増加する傾向、また、比較的収量水準の高い「新之助」の作付面積割合の増加が予想される、過度な疎植を控えることが徹底されたことにより、1㎡当たり有効穂数が増加傾向にあることから、1㎡当たり全もみ数が増加傾向等
富 山	537	537	537	539	540	1	近年の収量水準が上昇傾向、比較的収量水準の高い「てんたかく」及び「てんこもり」の作付面積割合が増加傾向、1㎡当たり株数が増加傾向にあり1㎡当たり全もみ数は増加傾向等
石 川	519	519	519	519	520	1	収量水準が高い「ゆめみづほ」の作付面積割合が増加傾向、比較的収量水準の高い地帯の作付面積割合が増加傾向等
長 野	623	621	621	621	619	△ 2	疎植栽培が増加傾向にあり、これに伴う1㎡当たり株数の減少により、1㎡当たり全もみ数が減少傾向等
香 川	499	499	499	499	496	△ 3	近年の収量水準が下降傾向、「おいでまい」の作付面積割合が増加傾向、疎植栽培が増加傾向にあり、これに伴う1㎡当たり株数の減少により、1㎡当たり全もみ数が減少傾向等
福 岡	499	499	499	497	496	△ 1	近年の収量水準が下降傾向、比較的収量水準の低い「元気つくし」等の作付面積割合が増加傾向等
長 崎	478	478	479	479	480	1	近年の収量水準が上昇傾向、比較的収量水準の高い地帯の作付面積割合が増加傾向等

平成29年産水稻の全国及び都道府県別10a 当たり平年収量（案）

1 1.70mm基準ベース

2 農家等が使用しているふるい目幅ベース

単位：kg

全 国 都道府県	10a当たり 平年収量	前年産 対 差	10a当たり 平年収量	前年産 対 差
全 国	532	1	518	1
北海道	546	5	530	6
青 森	589	3	573	4
岩 手	535	1	522	3
宮 城	533	2	519	2
秋 田	573	0	556	2
山 形	595	0	580	2
福 島	543	1	527	1
茨 城	524	0	515	△ 1
栃 木	540	0	529	1
群 馬	495	0	479	0
埼 玉	490	0	475	0
千 葉	538	3	528	3
東 京	414	3	404	3
神奈川	493	0	478	0
新 潟	543	2	527	3
富 山	540	1	527	2
石 川	520	1	507	3
福 井	519	0	500	1
山 梨	547	0	533	1
長 野	619	△ 2	607	△ 2
岐 阜	488	0	478	0
静 岡	521	0	513	0
愛 知	507	0	499	0
三 重	500	0	489	1
滋 賀	518	0	506	0
京 都	511	0	502	1
大 阪	495	0	480	0
兵 庫	502	0	489	0
奈 良	513	0	500	0
和歌山	495	0	484	0
鳥 取	514	0	504	0
島 根	509	0	500	0
岡 山	526	0	514	△ 1
広 島	523	0	513	1
山 口	504	0	492	0
徳 島	474	0	469	0
香 川	496	△ 3	490	△ 3
愛 媛	498	0	492	△ 1
高 知	458	0	454	0
福 岡	496	△ 1	477	△ 2
佐 賀	519	0	503	0
長 崎	480	1	463	1
熊 本	513	0	497	0
大 分	502	0	480	0
宮 崎	496	0	482	△ 1
鹿 児 島	482	0	469	0
沖 縄	309	0	305	0

注：1 2の農家等が使用しているふるい目幅ベースとは、当該全国農業地域において多くの農家等が使用しているふるい目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 平成29年産水稻の作柄表示地帯別10a 当たり平年収量については、6月末頃を目途に決定する。